

特定非営利活動法人とつぷくおりてい定款

第1章 総 則

(名 称)

第1条 この法人は、特定非営利活動法人とつぷくおりていという。

(事務所)

第2条 この法人は、主たる事務所を東京都北区赤羽北一丁目8番7号に置く。

(目 的)

第3条 この法人は、発達の偏りや家庭の事情などにより個々の特性や環境に合わせた支援を必要としている子ども（利用中に成人となった者も含む）と保護者を対象として、学校・企業・行政等との連携を図りながら必要な支援を行うことで、学校や社会に積極的に参加する意欲や自信を持ち、将来的な自立の実現に寄与することを目的とする。

(特定非営利活動の種類)

第4条 この法人は、前条の目的を達成するため、次の種類の特定非営利活動を行う。

- (1) 保健、医療又は福祉の増進を図る活動
- (2) 社会教育の推進を図る活動
- (3) 男女共同参画社会の形成の促進を図る活動
- (4) 子どもの健全育成を図る活動
- (5) 情報化社会の発展を図る活動
- (6) 職業能力の開発又は雇用機会の拡充を支援する活動
- (7) 前各号に掲げる活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動

(事業の種類)

第5条 この法人は、第3条の目的を達成するため、特定非営利活動に係る事業として、次の事業を行う。

- (1) ICT活用によるプリント教材、動画、アプリ等を使用した、オンラインによる学習支援、社会性訓練、機能訓練ならびに心理的支援の事業
- (2) ICT活用によるプリント教材、動画、アプリ等を使用した、通所による学習支援、社会性訓練、機能訓練ならびに心理的支援の事業
- (3) 就労や就労継続のために必要な支援の事業
- (4) 母子家庭ならびに父子家庭の子どもや家族への支援ならびに啓発事業
- (5) 保護者や連携機関とのカウンセリング、観察と助言、研修会などの支援事業
- (6) 開発したプリント教材や書籍ならびに業務管理用アプリの販売事業
- (7) 児童福祉法に基づく障害児通所支援事業
- (8) その他目的を達成するために必要な事業

第2章 会 員

(種 別)

第6条 この法人の会員は、次の2種とし、正会員をもって特定非営利活動促進法（以下「法」という。）上の社員とする。

- (1) 正会員 この法人の目的に賛同して入会した個人及び団体
- (2) 賛助会員 この法人の目的に賛同し賛助するために入会した個人及び団体

(入 会)

第7条 会員の入会について、特に条件は定めない。

- 2 会員として入会しようとする者は、理事長が別に定める入会申込書により、理事長に申し込むものとする。
- 3 理事長は、前項の申し込みがあったとき、正当な理由がない限り、入会を認めなければならない。
- 4 理事長は、第2項の者の入会を認めないときは、速やかに、理由を付した書面をもって本人にその旨を通知しなければならない。

(入会金及び会費)

第8条 会員は、総会において別に定める入会金及び会費を納入しなければならない。

(会員の資格の喪失)

第9条 会員が次の各号の一に該当する場合には、その資格を喪失する。

- (1) 退会届の提出をしたとき。
- (2) 本人が死亡し、若しくは失踪宣告を受け、又は会員である団体が消滅したとき。
- (3) 継続して1年以上会費を滞納したとき。
- (4) 除名されたとき。

(退 会)

第10条 会員は、理事長が別に定める退会届を理事長に提出して、任意に退会することができる。

(除 名)

第11条 会員が次の各号の一に該当する場合には、総会の議決により、これを除名することができる。

- (1) この定款に違反したとき。
 - (2) この法人の名譽を傷つけ、又は目的に反する行為をしたとき。
- 2 前項の規定により会員を除名しようとする場合は、議決の前に当該会員に弁明の機会を与えなければならない。

第3章 役 員

(種別及び定数)

第12条 この法人に、次の役員を置く。

- (1) 理事 3人以上7人以内
 - (2) 監事 1人以上2人以内
- 2 理事のうち1人を理事長とし、1人以上2人以内を副理事長とする。

(選任等)

第13条 理事及び監事は、総会において選任する。

- 2 理事長及び副理事長は、理事の互選とする。
- 3 役員のうちには、それぞれの役員について、その配偶者若しくは3親等以内の親族が1人を超えて含まれ、又は当該役員並びにその配偶者及び3親等以内の親族が役員の総数の3分の1を超えて含まれることにはならない。
- 4 法第20条各号のいずれかに該当する者は、この法人の役員になることができない。
- 5 監事は、理事又はこの法人の職員を兼ねてはならない。

(職務)

第14条 理事長は、この法人を代表し、その業務を総理する。

- 2 理事長以外の理事は、法人の業務について、この法人を代表しない。
- 3 副理事長は、理事長を補佐し、理事長に事故があるとき又は理事長が欠けたときは、理事長があらかじめ指名した順序によって、その職務を代行する。
- 4 理事は、理事会を構成し、この定款の定め及び総会又は理事会の議決に基づき、この法人の業務を執行する。
- 5 監事は、次に掲げる職務を行う。
 - (1) 理事の業務執行の状況を監査すること。
 - (2) この法人の財産の状況を監査すること。
 - (3) 前2号の規定による監査の結果、この法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実があることを発見した場合には、これを総会又は所轄庁に報告すること。
 - (4) 前号の報告をするために必要がある場合には、総会を招集すること。
 - (5) 理事の業務執行の状況又はこの法人の財産の状況について、理事に意見を述べること。

(任期等)

第15条 役員任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 補欠のため、又は増員により就任した役員任期は、それぞれの前任者又は現任者の任期の残存期間とする。
- 3 前2項の規定にかかわらず、任期満了前に、総会において後任の役員が選任された場合は、当該総会が終結するまでを任期とする。また、任期満了後、後任の役員が選任されていない場合には、任期の末日後最初の総会が終結するまでその任期を延長する。
- 4 役員は、辞任又は任期満了後においても、後任者が就任するまでは、その職務を行わなければならない。

(欠員補充)

第16条 理事又は監事のうち、その定数の3分の1を超える者が欠けたときは、遅滞なくこれを補充しなければならない。

(解任)

第17条 役員が次の各号の一に該当する場合には、総会の議決により、これを解任することができる。

- (1) 心身の故障のため、職務の遂行に堪えないと認められるとき。
 - (2) 職務上の義務違反その他役員としてふさわしくない行為があったとき。
- 2 前項の規定により役員を解任しようとする場合は、議決の前に当該役員に弁明の機会を与えなければならない。

(報酬等)

第18条 役員は、その総数の3分の1以下の範囲内で報酬を受けることができる。

- 2 役員には、その職務を執行するために要した費用を弁償することができる。
- 3 前2項に関し必要な事項は、総会の議決を経て、理事長が別に定める。

第4章 会 議

(種 別)

第19条 この法人の会議は、総会及び理事会の2種とする。

2 総会は、通常総会及び臨時総会とする。

(総会の構成)

第20条 総会は、正会員をもって構成する。

(総会の権能)

第21条 総会は、以下の事項について議決する。

- (1) 定款の変更
- (2) 解散及び合併
- (3) 会員の除名
- (4) 事業計画及び予算並びにその変更
- (5) 事業報告及び決算
- (6) 役員を選任及び解任
- (7) 役員の職務及び報酬
- (8) 入会金及び会費の額
- (9) 資産の管理の方法
- (10) 借入金（その事業年度内の収益をもって償還する短期借入金を除く。第47条において同じ。）その他新たな義務の負担及び権利の放棄
- (11) 解散における残余財産の帰属
- (12) 事務局の組織及び運営
- (13) その他運営に関する重要事項

(総会の開催)

第22条 通常総会は、毎年1回開催する。

2 臨時総会は、次に掲げる場合に開催する。

- (1) 理事会又は理事長が必要と認め、招集の請求をしたとき。
- (2) 正会員総数の5分の1以上から会議の目的を記載した書面により招集の請求があったとき。
- (3) 監事が第14条第5項第4号の規定に基づいて招集するとき。

(総会の招集)

第23条 総会は、前条第2項第3号の場合を除いて、理事長が招集する。

2 理事長は、前条第2項第1号及び第2号の規定による請求があったときは、その日から30日以内に臨時総会を招集しなければならない。

3 総会を招集するときには、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面又は電磁的方法により、開催の日の少なくとも5日前までに通知しなければならない。

(総会の議長)

第24条 総会の議長は、その総会に出席した正会員の中から選出する。

(総会の定足数)

第25条 総会は、正会員総数の2分の1以上の出席がなければ開会することはできない。

(総会の議決)

第26条 総会における議決事項は、第23条第3項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。

- 2 総会の議事は、この定款に規定するもののほか、出席した正会員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 3 理事又は正会員が、総会の目的である事項について提案した場合において、正会員全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、当該提案を可決する旨の社員総会の決議があったものとみなす。

(総会での表決権等)

第27条 各正会員の表決権は、平等なものとする。

- 2 やむを得ない理由により総会に出席できない正会員は、あらかじめ通知した事項について書面若しくは電磁的方法をもって表決し、又は他の正会員を代理人として表決を委任することができる。
- 3 前項の規定により表決した正会員は、前2条及び次条第1項の適用については、総会に出席したものとみなす。
- 4 やむを得ない理由により総会の場に来られない正会員は、ネットワーク機器等の接続によるオンライン会議システム（発言等の情報伝達の双方向性及び即時性が確保されているものに限る。以下同じ。）によって、総会に出席し、表決することができる。
- 5 総会の議決について、特別の利害関係を有する正会員は、その議事の議決に加わることはできない。

(総会の議事録)

第28条 総会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

- (1) 日時及び場所
 - (2) 正会員総数及び出席者数（書面若しくは電磁的方法による表決者又は表決委任者がある場合、又は、オンライン会議システムによる出席者がある場合にあっては、その数を付記すること。）
 - (3) 審議事項
 - (4) 議事の経過の概要及び議決の結果
 - (5) 議事録署名人の選任に関する事項
- 2 議事録には、議長及び総会において選任された議事録署名人2人が、記名押印又は署名しなければならない。
 - 3 前2項の規定にかかわらず、正会員全員が書面又は電磁的記録による同意の意思表示をしたことにより、総会の決議があったとみなされた場合においては、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。
 - (1) 総会の決議があったものとみなされた事項の内容
 - (2) 前号の事項の提案をした者の氏名又は名称
 - (3) 総会の決議があったものとみなされた日及び正会員総数
 - (4) 議事録の作成に係る職務を行った者の氏名

(理事会の構成)

第29条 理事会は、理事をもって構成する。

(理事会の権能)

第30条 理事会は、この定款に別に定める事項のほか、次の事項を議決する。

- (1) 総会に付議すべき事項
- (2) 総会の議決した事項の執行に関する事項
- (3) その他総会の議決を要しない業務の執行に関する事項

(理事会の開催)

第31条 理事会は、次に掲げる場合に開催する。

- (1) 理事長が必要と認めたとき。
- (2) 理事総数の2分の1以上から理事会の目的である事項を記載した書面により招集の請求があったとき。

(理事会の招集)

第32条 理事会は、理事長が招集する。

- 2 理事長は、前条第2号の規定による請求があったときは、その日から14日以内に理事会を招集しなければならない。
- 3 理事会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面又は電磁的方法により、開催の日の少なくとも5日前までに通知しなければならない。

(理事会の議長)

第33条 理事会の議長は、理事長がこれにあたる。

(理事会の議決)

第34条 理事会における議決事項は、第32条第3項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。

- 2 理事会の議事は、理事総数の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(理事会での表決権等)

第35条 各理事の表決権は、平等なものとする。

- 2 やむを得ない理由のため理事会に出席できない理事は、あらかじめ通知された事項について書面をもって表決することができる。
- 3 前項の規定により表決した理事は、前条及び次条第1項の適用については、理事会に出席したものとみなす。
- 4 理事会の議決について、特別の利害関係を有する理事は、その議事の議決に加わることができない。

(理事会の議事録)

第36条 理事会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

- (1) 日時及び場所
 - (2) 理事総数、出席者数及び出席者氏名（書面表決者にあつては、その旨を付記すること。）
 - (3) 審議事項
 - (4) 議事の経過の概要及び議決の結果
 - (5) 議事録署名人の選任に関する事項
- 2 議事録には、議長及びその会議において選任された議事録署名人2人が記名押印又は署名しなければならない。

第5章 資 産

(資産の構成)

第37条 この法人の資産は、次の各号に掲げるものをもって構成する。

- (1) 設立当初の財産目録に記載された資産
- (2) 入会金及び会費
- (3) 寄附金品
- (4) 財産から生じる収益
- (5) 事業に伴う収益
- (6) その他の収益

(資産の区分)

第38条 この法人の資産は、特定非営利活動に係る事業に関する資産とする。

(資産の管理)

第39条 この法人の資産は、理事長が管理し、その方法は、総会の議決を経て、理事長が別に定める。

第6章 会 計

(会計の原則)

第40条 この法人の会計は、法第27条各号に掲げる原則に従って行わなければならない。

(会計の区分)

第41条 この法人の会計は、特定非営利活動に係る事業会計とする。

(事業年度)

第42条 この法人の事業年度は、毎年10月1日に始まり、翌年9月30日に終わる。

(事業計画及び予算)

第43条 この法人の事業計画及びこれに伴う予算は、毎事業年度、理事長が作成し、総会の議決を経なければならない。

(暫定予算)

第44条 前条の規定にかかわらず、やむを得ない理由により予算が成立しないときは、理事長は、理事会の議決を経て、予算成立の日まで前事業年度の予算に準じ収益費用を講じることができる。

- 2 前項の収益費用は、新たに成立した予算の収益費用とみなす。

(予算の追加及び更正)

第45条 予算成立後にやむを得ない事由が生じたときは、総会の議決を経て、既定予算の追加又は更正をすることができる。

(事業報告及び決算)

第46条 この法人の事業報告書、活動計算書、貸借対照表及び財産目録等決算に関する書類は、毎事業年度終了後、速やかに、理事長が作成し、監事の監査を受け、総会の議決を経なければならない。

- 2 決算上剰余金を生じたときは、次事業年度に繰り越すものとする。

(臨機の措置)

第47条 予算をもって定めるもののほか、借入金の借入れその他新たな義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、総会の議決を経なければならない。

第7章 定款の変更、解散及び合併

(定款の変更)

第48条 この法人が定款を変更しようとするときは、総会に出席した正会員の4分の3以上の多数による議決を経て、かつ、法第25条第3項に規定する事項については、所轄庁の認証を得なければならない。

2 この法人の定款を変更（前項の規定により所轄庁の認証を得なければならない事項を除く。）したときは、所轄庁に届け出なければならない。

(解 散)

第49条 この法人は、次に掲げる事由により解散する。

- (1) 総会の決議
- (2) 目的とする特定非営利活動に係る事業の成功の不能
- (3) 正会員の欠亡
- (4) 合併
- (5) 破産手続開始の決定
- (6) 所轄庁による設立の認証の取消し

2 前項第1号の事由によりこの法人が解散するときは、正会員総数の4分の3以上の議決を経なければならない。

3 第1項第2号の事由によりこの法人が解散するときは、所轄庁の認定を得なければならない。

(残余財産の帰属)

第50条 この法人が解散（合併又は破産手続開始の決定による解散を除く。）したときに残存する財産は、法第11条第3項に掲げる者のうち、総会において議決したものに譲渡するものとする。

(合 併)

第51条 この法人が合併しようとするときは、総会において正会員総数の4分の3以上の議決を経て、かつ、所轄庁の認証を得なければならない。

第8章 公告の方法

(公告の方法)

第52条 この法人の公告は、この法人の掲示場に掲示するとともに、官報に掲載して行う。ただし、法第28条の2第1項に規定する貸借対照表の公告については、この法人のホームページにおいて行う。

第9章 事務局

(事務局の設置)

第53条 この法人に、この法人の事務を処理するため、事務局を設置することができる。

2 事務局には、事務局長及び必要な職員を置くことができる。

(職員の任免)

第54条 事務局長及び職員の任免は、理事長が行う。

(組織及び運営)

第55条 事務局の組織及び運営に関し必要な事項は、総会の議決を経て、理事長が別に定める。

第10章 雑 則

(細 則)

第56条 この定款の施行について必要な細則は、理事会の議決を経て、理事長がこれを定める。

附 則

1 この定款は、この法人の成立の日から施行する。

2 この法人の設立当初の役員は、次のとおりとする。

理事長	岩 内	由 里 子
副理事長	青 山	直 樹
理 事	奥 田	直 裕
理 事	道 本	和 照
監 事	武 藤	壮 一

3 この法人の設立当初の役員の任期は、第15条第1項の規定にかかわらず、この法人の成立の日から令和5年12月31日までとする。

4 この法人の設立当初の事業年度は、第42条の規定にかかわらず、この法人の成立の日から令和5年9月30日までとする。

5 この法人の設立当初の事業計画及び予算は、第43条の規定にかかわらず、設立総会の定めるところによる。

6 この法人の設立当初の入会金及び会費は、第8条の規定にかかわらず、次に掲げる額とする。

(1) 入会金 正会員（個人・団体） 0円 賛助会員（個人・団体） 0円

(2) 年会費 正会員（個人・団体） 0円 賛助会員（個人・団体） 1口12,000円

(1口以上)

令和6年度

事業計画書

特定非営利活動法人 とつぷくおりてい

1 事業の方針

令和6年度は、従来のNPO法人活動だけではなく児童福祉法に基づく児童発達支援・放課後等デイサービス事業所の開設を4月目標として準備を進める。開設場所・物件については検討中ではあるが、現在のサービス提供の中心となっている東京都八王子市南大沢界隈に設立方針である。理由として、子ども人口が東京都の中で最も多いこと、住人の定着率が高く比較的裕福な家庭が多いことなどから今後の教育支援や就労に向けての当法人の強みを活かしたサービスへの需要が高いと判断した。開設に当たり、物件の家賃、共益費、人件費、設備、内装などの初期投資が大きくなることは懸念材料ではあるが、令和9年度以降には累計黒字化を達成できるものとして事業を推し進める計画である。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

(事業費の総費用【 9336 】千円)

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	受益対象者範囲	受益対象者人数	事業費(千円)
ICT活用によるプリント教材、動画、アプリ等を使用した、オンラインによる学習支援、社会性訓練、機能訓練ならびに心理的支援の事業	通所が困難な利用者に対して、オンラインによる専門的な学習支援、療育、心理的支援を実施する。学習支援、療育は、発達検査、アセスメント結果を考慮して、つまずきポイントをスモールステップ方式で克服する手法により学習、療育の積み上げを行う。心理的支援は、ストレスチェックや行動記録表を活用して、傾聴、アドバイス、遊戯療法を取り入れて支援する。	月～金 13:30 から21: 30まで	オンライン 法人 教室	2名	全国の支援を必要としている子どもとその保護者	20人	300
ICT活用によるプリント教材、動画、アプリ等を使用した、通所による学習支援、社会性訓練、機能訓練ならびに心理的支援の事業	通所が可能な利用者に対して、通所による専門的な学習支援、療育、心理的支援を実施する。学習支援、療育は、発達検査、アセスメント結果を考慮して、つまずきポイントをスモールステップ方式で克服する手法により学習、療育の積み上げを行う。心理的支援は、ストレスチェックや行動記録表を活用して、傾聴、アドバイス、遊戯療法を取り入れて支援する。	月～金 13:30 から21: 30まで	法人 教室	4名	地域・近隣の支援を必要としている子どもとその保護者	90人	2500
就労や就労継続のために必要な支援の事業	面接練習、履歴書作成方法、対人コミュニケーション、ストレス対策などについての指導と練習	月～金 13:30 から21: 30まで	オンライン 法人 教室	4名	全国の支援を必要としている子どもとその保護者	20人	100

母子家庭ならびに父子家庭の子どもや家族への支援ならびに啓発事業	孤立防止や子どもの健全育成に関する会の設立と運営	月～金 13:30 から21: 30まで	オンライ ン 法人 教室	2名	地域・近隣の 対象となる 子どもとそ の保護者ま たは児童養 護施設の希 望者	10人	50
保護者や連携機 関とのカウンセ リング、観察と 助言、研修会な どの支援事業	個人またはグループを対象とした悩みの相談やコンサルティングの実施や発達・子育て・就労などをテーマにした研修会の実施	月～金 13:30 から21: 30まで	オンライ ン 法人 教室	4名	利用者の保 護者と学校 関係者、連携 機関の希望 者	20人	50
開発したプリン ト教材や書籍な らびに業務管理 用アプリの販売 事業	英語、漢字、理科、社会、算数、数学のオーダーメイド教材「プリントビューッフェ」、PODオリジナル問題集の出版ならびに業務用管理アプリの製作・販売	月～金 13:30 から21: 30まで	法人 事務所	2名	全国のオー ダーメイド 教材を利用 しての学習 希望者なら びに全国の 通所型障害 児支援事業 所の希望者	20人	336
児童福祉法に基 づく障害児通所 支援事業	放課後等デイサービス事業	月～金 13:30 から21: 30まで	法人 事務所	5名	地域・近隣の 支援を必要 としている 子どもとそ の保護者	400人	6000
その他目的を達 成するために必 要な事業							0

令和7年度

事業計画書

特定非営利活動法人 とつぷくおりてい

1 事業の方針

令和7年度は、放課後等デイサービス事業を中心に児童、生徒への支援を行う。また、保護者・家族に対するカウンセリングや家族療法ワークショップなどの心理的支援を行うことで、家庭環境の更なる充実を図る。また、NPO 法人活動は療育以外にも、オーダーメイド教材販売や認知行動療法や行動分析理論に関する書籍やワークブックの販売なども展開してゆく方針である。また、放課後等デイサービス事業の運営に当たり、利用者の出席率や振替利用率を向上することで、より一層充実した支援サービスを提供したいと考える。また、職場環境やサービスをより良いものにするための各種研修会の実施や資格取得推進制度など福利厚生制度の拡充なども図ってゆきたいと考える。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

(事業費の総費用【 17228 】千円)

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	受益対象者範囲	受益対象者人数	事業費(千円)
ICT 活用によるプリント教材、動画、アプリ等を使用した、オンラインによる学習支援、社会性訓練、機能訓練ならびに心理的支援の事業	通所が困難な利用者に対して、オンラインによる専門的な学習支援、療育、心理的支援を実施する。学習支援、療育は、発達検査、アセスメント結果を考慮して、つまずきポイントをスモールステップ方式で克服する手法により学習、療育の積み上げを行う。心理的支援は、ストレスチェックや行動記録表を活用して、傾聴、アドバイス、遊戯療法を取り入れて支援する。	月～金 13:30 から21: 30まで	オンライ ン 法人 教室	2名	全国の支援を必要としている子どもとその保護者	20人	300
ICT 活用によるプリント教材、動画、アプリ等を使用した、通所による学習支援、社会性訓練、機能訓練ならびに心理的支援の事業	通所が可能な利用者に対して、通所による専門的な学習支援、療育、心理的支援を実施する。学習支援、療育は、発達検査、アセスメント結果を考慮して、つまずきポイントをスモールステップ方式で克服する手法により学習、療育の積み上げを行う。心理的支援は、ストレスチェックや行動記録表を活用して、傾聴、アドバイス、遊戯療法を取り入れて支援する。	月～金 13:30 から21: 30まで	法人 教室	4名	地域・近隣の支援を必要としている子どもとその保護者	100人	2800
就労や就労継続のために必要な支援の事業	面接練習、履歴書作成方法、対人コミュニケーション、ストレス対策などについての指導と練習	月～金 13:30 から21: 30まで	オンライ ン 法人 教室	4名	全国の支援を必要としている子どもとその保護者	30人	400

母子家庭ならびに父子家庭の子どもや家族への支援ならびに啓発事業	孤立防止や子どもの健全育成に関する会の設立と運営	月～金 13:30 から21: 30まで	オンライ ン 法人 教室	2名	地域・近隣の 対象となる 子どもとそ の保護者ま たは児童養 護施設の希 望者	10人	100
保護者や連携機 関とのカウンセ リング、観察と 助言、研修会な どの支援事業	個人またはグループを対象とし た悩みの相談やコンサルティング の実施や発達・子育て・就労 などをテーマにした研修会の実 施	月～金 13:30 から21: 30まで	オンライ ン 法人 教室	4名	利用者の保 護者と学校 関係者、連携 機関の希望 者	50人	300
開発したプリン ト教材や書籍な らびに業務管理 用アプリの販売 事業	英語、漢字、理科、社会、算数、 数学のオーダーメイド教材「プ リントビューッフェ」、POD オリ ジナル問題集の出版ならびに業務 用管理アプリの製作・販売	月～金 13:30 から21: 30まで	法人 事務所	2名	全国のオー ダーメイド 教材を利用 しての学習 希望者なら びに全国の 通所型障害 児支援事業 所の希望者	50人	528
児童福祉法に基 づく障害児通所 支援事業	放課後等デイサービス事業	月～金 13:30 から21: 30まで	法人 事務所	5名	地域・近隣の 支援を必要 としている 子どもとそ の保護者	800人	12800
その他目的を達 成するために必 要な事業							0

令和6年度 活動予算書 (その他事業がない場合)

特定非営利活動法人 とつづくおいてい

(単位:円)

科	目	金額	小計・合計
(A) 経常収益			
1 受取会費			474,000
正会員受取会費			
賛助会員受取会費	474,000		
2 受取寄附金		0	0
受取寄附金		0	
施設等受入評価益			
3 受取助成金等		0	0
受取補助金		0	
4 事業収益		12,525,961	12,617,961
非収益事業収益		12,525,961	
事業収益	92,000		
5 その他の収益		50	50
受取利息		50	
経常収益計			13,092,011
(B) 経常費用			
1 事業費			
(1) 人件費			5,195,161
給料手当	4,167,529		
役員報酬	480,000		
退職給付費用	90,000		
福利厚生費	457,632		
(2) その他経費			4,141,498
賃借料	1,689,852		
旅費交通費	327,948		
水道光熱費	1,454,148		
減価償却費	332,000		
業務運営費	210,000		
消耗品費	81,000		
支払利息	46,550		
事業費計			9,336,659
2 管理費			
(1) 人件費			555,409
役員報酬	480,000		
福利厚生費	75,409		
(2) その他経費			728,000
業務運営費	264,000		
減価償却費	152,000		
法務委託費	312,000		
管理費計			1,283,409
経常費用計			10,620,068
当期経常増減額【A】-【B】・・・①			2,471,942
(C) 経常外収益			
固定資産売却益			
過年度損益修正益			
経常外収益計			0
(D) 経常外費用			
固定資産売却損			
災害損失			
過年度損益修正損			
経常外費用計			0
当期経常外増減額【C】-【D】・・・②			0
税引前当期正味財産増減額①+②・・・③			2,471,942
法人税、住民税及び事業税・・・④			70,000
前期繰越正味財産額・・・⑤			-3,598,805
次期繰越正味財産額③-④+⑤			-1,196,863

令和7年度 活動予算書（その他事業がない場合）

特定非営利活動法人 とつづくおりてい

(単位：円)

科	目	金額	小計・合計
(A) 経常収益			
1 受取会費			816,000
正会員受取会費			
賛助会員受取会費	816,000		
2 受取寄附金			0
受取寄附金	0		
施設等受入評価益			
3 受取助成金等			200,000
受取補助金	200,000		
4 事業収益			25,144,013
非収益事業収益	24,876,013		
事業収益	268,000		
5 その他の収益			100
受取利息	100		
経常収益計			26,160,113
(B) 経常費用			
1 事業費			
(1) 人件費			9,166,903
給料手当	7,033,325		
役員報酬	744,000		
退職給付費用	360,000		
福利厚生費	1,029,578		
(2) その他経費			8,061,546
賃借料	3,211,704		
旅費交通費	655,896		
水道光熱費	2,908,296		
減価償却費	664,000		
業務運営費	420,000		
消耗品費	162,000		
支払利息	39,650		
事業費計			17,228,449
2 管理費			
(1) 人件費			856,946
役員報酬	744,000		
福利厚生費	112,946		
(2) その他経費			992,000
業務運営費	528,000		
減価償却費	152,000		
法務委託費	312,000		
管理費計			1,848,946
経常費用計			19,077,395
当期経常増減額【A】-【B】・・・①			7,082,718
(C) 経常外収益			
固定資産売却益			
過年度損益修正益			
経常外収益計			0
(D) 経常外費用			
固定資産売却損			
災害損失			
過年度損益修正損			
経常外費用計			0
当期経常外増減額【C】-【D】・・・②			0
税引前当期正味財産増減額①+②・・・③			7,082,718
法人税、住民税及び事業税・・・④			70,000
前期繰越正味財産額・・・⑤			-1,196,863
次期繰越正味財産額③-④+⑤			5,815,855